

1月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	16,434	101	15,452	211	101	228	0	0.0	静岡、長崎、愛媛中心の入荷となる。市場出荷できない下等級品が多かったため年末は品薄状態もみられた。年明けは「青島温州」を中心に長崎・愛媛産の普通種が出回り品質も安定して不足感も解消される見込み。少量ながら熊本・香川の早生完熟品も出回り引き合いは強い。全体の入荷量、価格は前並みの見込み。
りんご類	5,229	116	5,397	290	94	269	181	3.5	青森産が殆んどで、品種はふじが中心となる。りんごの晩生品種や後半産地は品質が安定してきている。12月に贈答物が家庭にいきわたったので動きは鈍くなっているが、産地は青森に限られ、じっくり販売していくので、価格はしっかりした展開が見込まれる。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。
いちご類	3,501	105	3,877	1,343	94	1,205	0	0.0	栃木、福岡、静岡、佐賀産中心の入荷となる。「とちおとめ」「あまおう」中心。12月の天候不良によりクリスマス前に数量が伸び悩み、業務用M・Lの需要がひっ迫した。年末にかけ徐々に不足感は解消され、1月中旬以降は九州産、関東産2番果により潤沢な出回りが期待される。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。
ほしがき	204	113	279	1,864	90	1,747	0	0.0	長野、富山産が中心となる。豊作と12月の降雨による作業遅れの影響で年明けの出荷が多い見込み。各産地内容がしっかりしているので大きな価格下げはないと予想される。福島産「あんぼ柿」は前年を上回る入荷量となる。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。